

「命の笛」

防災システム研究所ホームページより

★阪神・淡路大震災を教訓に「命の笛」が生まれました

阪神・淡路大震災（1995年1月17日）発生時、防災・危機管理アドバイザー山村武彦氏は、その日から始まる「日米都市防災会議」に出席するため前日から大阪にいました。大揺れが収まった後、そのまま激震地神戸に向かいます。そして約2時間後現地に入り、被災地各所で家の下敷きになった人々の助けを求める悲痛な声なき声を聞いたのです。犠牲になった人たちの多くが高齢者、乳幼児、妊産婦、身体の不自由な人たちでした。地上に声が届かず、さぞ無念だったろう、苦しかったらう。山村氏は神戸から戻り、こうした災害時要配慮者の犠牲をなくすために何ができるかを自問自省しました。そして、「イザッ」というとき、助けや応援を呼ぶ「命の笛」の携帯が必要という結論に達し、本当に使える役立つ笛を捜しました。そしてたどりついたのがこの笛だったのでした。

★笛なら何でもいいのではありません

小さな息でも遠くへ音が届く笛、ガラスや壁にさえぎられていても外へ聞こえる笛。アメリカの沿岸警備隊も使用するストームホイッスルと呼ばれる笛を小型化し「命の笛」と名づけました。それは、名前の通り嵐の中でも遠くまで届く優れた笛なのです。そして、名前や連絡先が記入できる「ネームプレート」を同じオレンジ色のひもでペンダントにしました。このオレンジ色の「命の笛」は、普段から障害者やお年寄りが身につけておき、助けや応援を必要とするとき、それを吹いて助けを求めることができます。

（この笛は、福祉作業所で障害者たちがセットしてくれています。ご注文いただくと、彼ら彼女らへの支援になります）

★命の笛

命の笛は米国ではストームホイッスルとも呼ばれ、群衆、騒音、爆発音などの中でも人が一番聞きとりやすいと言われる周波数3150ヘルツに合わせて調律されています。また、どんな気候、天候でも同じように機能が発揮できるようになっているのが特徴です。（ストームホイッスルは水に浸けても音が出ます）

重量： 20g（ホイッスルのみ）
音量： 118～120デシベル

聞こえる範囲： 陸上800m、水中15m

★助けを求める声にいつも誰かが耳を澄ませている社会

命の笛は外出するときはペンダントとして防犯にも役に立ちます。もし、街でオレンジ色の「命の笛」ペンダントを下げた人を見かけたら「何かお手伝いすることはありませんか？」と声をかけてあげてください。同じ地球の同じ時代を共に生きる仲間として、助け合いいたわりあえるようにしていただきたい。そして、いつも誰かが・・・助けを求めるかすかな声に耳を澄ませている。そんな社会になって欲しいと願っています。どうかお知り合いの障害者やお年寄りが必要と思われる方に「命の笛ペンダント」を贈ってあげてください。できれば2個セットで・・・1つは自分のために、もうひとつは「愛する人のため」に・・・防災とは、被害者、加害者、傍観者にならない（させない）ためのモラルです

- ご注文は：下記「命の笛運動本部事務局」へどうぞ（一つでもお送りいたします）

命の笛運動本部事務局
神奈川県茅ヶ崎市幸町21-24「画廊物語」内
FAX：0467-87-0618
電話：0467-87-4012



- ※ 上記の「命の笛」（ストームホイッスルと呼ばれる笛）価格は一個 1,500円 程度だそうです。

- ※ その他、一般的な防災グッズ（防災笛・防犯笛）で、右の写真のほか多くの種類があります。

価格は一個 150～800円 程度のものが多くあります。

